

平成29年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(小学校)

国語A

■ 結果概況

● 全ての領域、設問において、正答率が全国値を上回る。ただし、正答率が7割に満たない設問が3問ある。

□ 課題と対策

【課題】手紙の後付けに必要な、「日付、署名、宛て名」のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。

→ 実際に案内状や礼状などを地域の方に出す取組等を行い、書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、文章全体の構成を考えながら適切に書く力を付ける言語活動を行う。

【課題】話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する。

→ 俳句に込めた思いを思い浮かべること、音読することを通して、文語の調子に親しむことができるようにすること、俳句について感じたことを交流することで、想像したことを広げたり深めたりすることができるように指導する。

大分県(公立)	全国(公立)
76	74.8

※平均正答率

国語B

■ 結果概況

● 全ての領域において、正答率が全国値を上回る。ただし、短答式の設問において、全国値を2.0ポイント下回った。

□ 課題と対策

【課題】スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く。

→ ・自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりする指導を行う。

・声量・速度・抑揚・間・敬体と常体の使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について指導する。

【課題】文章を読んだあとの話し合いにおける発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する。

→ 考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら、交流する機会を設定する。物語全体を見通すことができるような学習シート等を活用しながら、どの叙述に着目したのかを明確にできるように指導する。

大分県(公立)	全国(公立)
58	57.5

※平均正答率

算数A

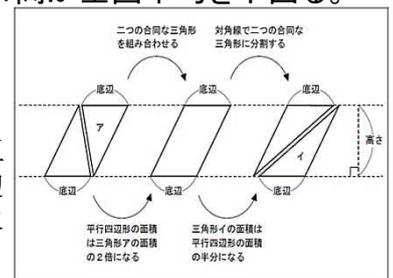
■ 結果概況

● 全ての領域・観点において、正答率が全国値を上回る。無解答率は、14問が全国平均を下回る。

□ 課題と対策

【課題】示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題。

→ 右図のように、二つの合同な三角形を組み合わせたたり、平行四辺形を対角線で二つの合同な三角形に分割したりすることで、三角形と平行四辺形の面積を比較し、三角形アと三角形イの面積が等しくなることを説明する活動を行う。その際、平行四辺形の面積を求める式と三角形の面積を求める式を比較し、三角形の面積を求める式にある「÷2」の意味を確認させる。



算数B

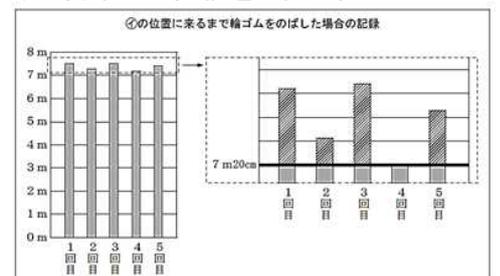
■ 結果概況

● 「量と測定」「図形」領域、観点「数量や図形についての知識・理解」において、正答率が全国値を下回る。

□ 課題と対策

【課題】仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題。

→ 測定値の結果をそのまま使って平均を求める場合や、7mを基準として平均を求める場合について考察した後、右図のように、7m20cmに基準を変えて考察する活動を行う。その際、グラフ・式・言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し、説明する活動を行う。仮の平均の考え方を活用することで、平均を工夫して処理することができる場合があることを実感させる。



大分県(公立)	全国(公立)
46	45.9

※平均正答率

平成29年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(中学校)

国語A

■ 結果概況

● 全ての領域において、正答率が全国値を上回る。ただし、正答率が7割に満たない設問が6問ある。

□ 課題と対策

【課題】先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す。

→ 目的や内容を明確にした上で、相手に分かりやすく伝わるように語句を選んで話すように指導する。

【課題】文中の語句の意味として適切なものを選択する。

→ 文脈に即して語句の意味を的確に捉えながら読むように指導する。その際、その語句の一般的な意味を踏まえ、文脈の中における具体的・個別的な意味を捉えるように指導する。

大分県(公立)	全国(公立)
79	77.4

※平均正答率

国語B

■ 結果概況

● 「話すこと・聞くこと」領域において、正答率が全国値を少し下回った。

□ 課題と対策

【課題】スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す。

→ ・ 交流を通して振り返り、より分かりやすい内容や表現の仕方について考えさせる。

・ 実際にスピーチをする様子を、機器を用いて録画・録音し、伝えたい内容が正確に伝わっているか、聞き手に分かりやすい言葉になっているかなどについて振り返り、話し手と聞き手の両方の立場から検討するなどの学習活動を行う。

大分県(公立)	全国(公立)
73	72.2

※平均正答率

数学A

■ 結果概況

● 「数と式」「関数」領域において、正答率が全国値を上回ったが、「図形」「資料の活用」領域において、全国値を下回った。

□ 課題と対策

【課題】円柱の体積を求める問題。

→ (底面積) × (高さ) という柱体の体積を求める公式を見直し、この円柱を、半径10cmの円を15cmだけ一定の方向に平行に移動することによって構成される立体とみることができていることを確認する場面を設定する。その上で、円柱の模型について実測した底面の半径や高さから見積もった体積と、模型に満たした水の容量とを比較する場面を設定するなどして、数量の感覚を豊かにさせる。

大分県(公立)	全国(公立)
64	64.6

※平均正答率

数学B

■ 結果概況

● 全ての領域で正答率が全国値を下回る。特に「図形」「関数」領域において、全国との差が大きい。

□ 課題と対策

【課題】数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理する問題

→ ・ 問題解決において用いた式を事象に即して捉え直す活動を取り入れ、式を事象に即して解釈できるように指導する。

・ 与えられた情報を基に、1日あたりの節水量 b の関係を式 $b = 12a + 5 \times 2$ に表し、式の「 $12a$ 」が「シャワーを流しっぱなしにしている時間を a 分間短くしたときの節水量」、「 5×2 」が「1日2回の歯磨きでコップに水を貯めて歯磨きしたときの節水量」を表すことを確認する場面を設定する。その際、変域を正しく求めることだけでなく、具体的な事象について、変域を使って表現することや変域を意識しながら事象を捉え説明する。

大分県(公立)	全国(公立)
47	48.1

※平均正答率

平成29年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(全体)

(小中)国語

■学習指導のポイント・授業で取り組むべきこと

●主体的・対話的で深い学びを促すために、以下8点について留意し、単元構想と授業実践を行う。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ①児童が興味をもつ教材・題材 | ②魅力的な課題の提示、児童生徒による課題の発見 |
| ③学習の見通し、本時の目標(めあて)の明示 | ④課題解決的な学習、既習事項を活用する学習 |
| ⑤自分の考えを発表・交流する機会 | ⑥「できた」「わかった」の実感 |
| ⑦「できたこと」「わかったこと」の振り返り | ⑧日常生活、社会生活への広がり |

Check!

「適切な言語活動の設定とその充実」

Check!

児童生徒の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ①付けたい力を付けるにふさわしい言語活動であるか。
- ②多様な図書資料等が有効に活用されているか
- ③既習事項(または知識・技能)を活用する言語活動であるか。
- ④③のために知識・技能の確実な定着を図っているか。
- ⑤児童の興味関心を喚起する言語活動であるか。
- ⑥発表や交流活動を設定した言語活動であるか。

- ①適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか。
- ②指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか。
- ③単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか。
- ④「おおむね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は適切であるか。
- ⑤「C 努力を要する状況」の児童生徒への指導や支援は行われているか、またその方法(手段)は、有効であるか。

(小)算数

■学習指導のポイント・授業で取り組むべきこと

Check!

見通しをもち筋道立てて考え、表現する活動を重視した授業の充実

児童に、筋道立てて考えたことを過不足なく表現させる場面では、全国学力・学習状況調査「記述式」問題を参考に、説明に必要な要素を明確にした授業ができています。

- | | |
|----------|--|
| 事柄・事実の説明 | ■計算の性質、図形の性質や定義、数量の関係の記述を求めること、表やグラフ等から見いだせる傾向や特徴を記述すること。 |
| 方法・手順の説明 | ■問題を解決するための自分の考えや解決方法の記述を求めること、他者の考え方や解決方法を理解して、その記述を求めること。 |
| 理由の説明 | ■ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由の記述を求めること。「AだからBになる」のように、理由(A)及び結論(B)明確にして考え、それを記述すること。理由として取り上げるべき事柄が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述すること。 |

(中)数学

■学習指導のポイント・授業で取り組むべきこと

Check!

数学的な表現を用いて説明し、伝えあう活動を重視した授業の充実

■予想した事柄や事実を数学的な表現を用いて説明する授業 ■問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明する授業
 ■事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する授業
 これらの授業を行う際に、全国学力・学習状況調査「記述式」問題を参考に、説明に必要な要素を明確にした授業ができています。

- | | |
|----------|--|
| 事柄・事実の説明 | ■「〇〇ならば△△である。」のような形で、「前提〇〇」とそれによって説明される「結論△△」の両方を記述する。 |
| 方法・手順の説明 | ■「用いるもの(表、式、グラフなど)」を明確にした上で、その「使い方」を記述する。 |
| 理由の説明 | ■「〇〇であるから、△△である。」のような形で、「根拠〇〇」と「成り立つ事柄△△」の両方を記述する。 |